

王であるキリスト  
ヨハネ 18・33b～37

2015. 11. 22

イエズス会司祭 柴田 潔

イグナチオの霊操(1ヶ月黙想の家など世間から離れて沈黙で黙想します)の中に「キリストの国」(#91～100)という黙想があつて、2人の王が登場してきます。「この世の王・過ぎ行く世の王」は、権力や豊かさをちらつかせて気を引こうとしてきます。イエスが荒れ野で試みを受けたように、いろいろな方法を使って神様から遠ざけようとします。一方、「永遠の王キリスト」は、寛大で柔和で、人情が厚い王です。キリストはこう呼びかけます。「わたしに従いたい者は皆、同じ食べ物、飲み物、着物で満足しなければならない。昼はわたしと共に働き、夜は寝ずの番などをして働かなければならない。こうして、わたしの労苦に与ったように、わたしの勝利にも与るであろう」。黙想の中で何度も何度もこの言葉を心に響かせていきます。そして、どちらの王についていくか選んで、生涯キリストに従う覚悟を決めます。だから、霊操の中でも、大切な、大切な祈りです。2年間の修練の終わりに誓願を立てますが、ここにいる渡辺神学生も今年の3月に初誓願を立てていますが、初めての誓願で、生涯、修道会に留まることを宣言します。ニャー神学生も9年前に初誓願を立てています。「永遠の王・キリスト」についていこうと覚悟を決めています。

最近、園児さんを見ていて「覚悟」について考える機会がありました。ある幼稚園で、保護者宛てにクリスマスのお話を頼まれました。何も知らない幼稚園でいきなり保護者にお話するのもどうかと思い、木曜日と金曜日に子どもたちと一緒に過ごしました。ちょうど金曜日が年長さんのドッジボール大会で、本番の前日、木曜日は練習試合でした。わたしは1つのクラスに入らずと一緒にいたので、そのクラスを見ていました。女の子が9人で、男の子が2人でしたが、男の子がぱっとしません。相手を当てようと投げるボールはほとんどワンバウンドだし届かない、取れないボールに手を出して当たってしまいます。「それじゃだめ！」とコートの中に入って教えようとする、相手のチームから「誰のお父さん？」と文句が出てきました。練習試合が終わって、先生から「一言どうぞ」と指名されたので、細かい技術的な話をするよりも応援の気持ちをこめて「優勝できるように、神父さんがカブトムシの幼虫探してくる

から、明日がんばろう！」と励ましました。修道院の堆肥置き場を1時間掘って、何とか1匹捕まえました。さらに見つけようとしたが、腰を痛めそうなのでやめました。

そして、翌日の本番、5試合がありました。でも、もう少しのところまでいくんですが、勝ちきれなくて0勝、2敗、3引き分けで、残念ながら6クラスで最下位でした。「あと少しで勝てたのに・・・」と応援していた年中さん、年少さんも残念がっていました。表彰式が終わって教室にもどると、先生が「感想を一言どうぞ！」と促します。一人ずつ順番にコメントします。「応援ありがとう」とか「みんなで心を合わせました」とか「勝てなかったけど一生懸命がんばりました」と・・・そんな感想が続いて、背の高い女の子の番がきました。しばらく沈黙があって「悔しかった」と一言言って泣き始めました。勝ちたい気持ち、強い覚悟で試合してたのは彼女でした。泣いている彼女を慰めようとみんな集まるシーンに、わたしはジーンときていました。次の女の子は「男の子が当たってばかりだった」と正直に言いました。男の子が余計なボールに手を出してなかったら勝てた試合があったので、その通りでした。次は、その男の子の番でした。何と言うか注目したんですが、「負けて悔しいけど、一生懸命やったので・・・楽しかった」と・・・男の子の覚悟はどうだったんでしょう？ そのクラスが頑張れたのも、残念ながら勝てなかったのも、よくわかる、そんなコメントでした。「勝ち負けにこだわるのは良くない」という考え方もありますが、「優勝するんだという覚悟」は、やっぱり大事だと思います。イグナチオは騎士だったし、わたしも運動系なので勝ち負けにこだわっているのかもしれませんが、その辺はご容赦を。

わたしは、ドッジボール一つでもこれだけ「覚悟」が違うことに驚きました。話を「キリストの国」に戻すと、キリストについていく「覚悟の強さ」を自分がどれだけ持っているのか考えさせられました。「本当にキリストについていきたいのか？」 さっきの女の子のように「勝ちたい一心になれるのか？」そこそこにやったり、人のせいにしてたりしてないか？ 振り返るきっかけをくれました。

さて、優勝のお祝いのつもりで捕まえたカブトムシの幼虫は、6番になった慰めのカブトムシになってしまいました。でも、約束通り本当に幼虫を探して

きたので、子どもたちは大喜びでした。「神父さんもみんなも応援していたよ。カブトムシはその気持ちです。大事に育ててください」と言うと、さっきの女の子も最後は笑顔になってくれました。

今日は、話がいろいろ飛びましたが、キリストについていく「覚悟」をもう一度見直しましょう。そして、ついていく「覚悟」をどう表現したらいいのか、考えてみましょう。意外なところに、イエス様についていく道があるものです。それを探す一週間にしていきましょう。それぞれが、与えられた立場で、覚悟を持って、キリストに従っていきましょう。